



今だからこそ前進!!

一般社団法人 大阪府作業療法士会
会長 関本 充史



2020年は、東京オリンピック・パラリンピック年として日本中が楽しみに正月を迎えたが、COVID-19感染が国内でも確認され感染対策やその対応の一年になりました。2021年を迎える頃には目処が見えているかと思われましたが、まだまだ油断できない状況下は変わりません。皆さんも、平穏な日々が迎えられる日が、1日でも早く迎えられる一年でありすようにと、静かに2021年を迎えられたでしょう。

2020年度も残りわずかとなりました。今までに経験したことのないことばかりで、試行錯誤の一年でした。本当に、悩み考え、正解がある訳でもなく、実践しては見直しての繰り返しでした。しかし、その繰り返しの疲弊しているだけでなく、感染対策しながら積極的な士会運営をしていく2021年度にすることと致しました。現状検討している内容は、年末に「新型コロナウイルス感染対策への当士会の対応について(第5報)」をお届けしたので、ご参照ください。これらの検討事項は、この一年の実践から見えてきた取り組みを取り入れています。例えば、オンライン研修です。対面で実施できなかった研修や会議もWEB研修へ切り替えることで、子育てや介護により今まで参加できなかった会員も参加できる利点がありました。2021年度には、研修会はオンラインで可能なもの、対面でしか実施できないものに分類し、積極的なオンライン研修システム構築を目指していきたいと考えています。対面研修に関しても感染状況を鑑み

て実施できる準備を進めると共に、Webでも参加できる体制を考えております。対面研修に参加できない会員の方々もいるので、2021年度当士会主催研修は受講費無料とします。予算に関しても、これまで取り組んだことの無いことにチャレンジし、会員の皆さんにとっても有用となり府民・市民のために貢献できる団体を目指し、新たなシステムへ投資していきます。現状は、会員の皆さんが府民・市民へ作業療法を提供できるよう予算を有効活用しようと、一致団結で事業推進していきたいと考えております。

また、このコロナ禍であっても、大阪府下市町村からは地域支援事業への関わり依頼や、就労に関して労働局からの講師依頼、中学校での職業講話など、多くのお声を頂いており、対応できる人員を選出して感染対策しながら応えられるようにしております。

これからも試行錯誤しながら、コロナ禍だからこそ前進できる組織を目指し、求められる役割をきちんと果たしていける団体を目指します。作業療法士は、生活機能をアセスメントし、生活課題に対して解決策を提示する職種です。これだけ日常に密着した専門職はありません。対象者が、お子さんであろうと、高齢者であろうと、どんな障害があろうと、私たちの根本は変わりません。時代に求められる作業療法を、理論を備えた作業療法を届けられる団体でありたいです。

まだまだ収束がみえない状況下ですが、どうぞ会員の皆様もご自愛ください。